

議会報告会 報告書

秦野市議会議長 小菅 基司 様

環境都市常任委員会委員長 福森 真司

開催日時	令和4年10月31日（月）午後3時から午後4時30分まで
開催場所	市役所本庁舎4階 議会第一会議室
出席委員	委員氏名（役割）
	小菅基司（議長あいさつ） 福森真司（司会、1班進行）、大野祐司（2班進行）、 吉村慶一（1班発表）、今井実（2班発表）、 横山むらさき（2班記録）、阿蘇佳一（1班記録）、 横溝泰世（1班記録）
参加者数	○長内 紳悟 様（早稲田大学マニフェスト研究所） ○勝間田 兼二 様（小田急電鉄(株) 秦野駅駅長） ○岡本 淳 様（神奈川中央交通西(株) 秦野営業所所長） ○橋本 良一 様（秦野交通(株) 取締役総務部長） ○鈴木 純 様（(株)愛鶴 所長） ○鈴木 俊司 様（めん羊の里 木里館） ○川上 拓郎 様（鶴巻温泉南町商店会 会長）
主な流れ及び 時間配分	1. 開 会 2. 議長あいさつ 3. 常任委員会委員及び参加者の紹介 4. 議会報告 5. 委員会の検討状況 6. 意見交換（ワークショップ） テーマ：切れ目ない交通サービスの充実を通じたこれからの地域 経済の活性化を考える 7. 発表・講評 8. 閉 会
内容 （話し合われた 課題や意見、所感 等）	【意見交換内容】 早稲田大学マニフェスト研究所 長内氏の進行により、意見交換（ワークショップ）が開催された。意見交換では、2班のグループに分かれ、テーマに沿ってそれぞれで話し合いを行った。

【1班の発表内容】 発表者：吉村慶一委員

- ・桜の木を植えたり、ミツマタを植樹したりという活動をされていて、目的は弘法山公園の魅力をアップするためにやっているが、人手と資金不足、そして駐車場が狭いことが課題。
- ・秦野駅から弘法山公園へ向かうのに、駅を出てすぐに水無川沿いを下って行ってしまう。何とか商店街を通っていくようなコースにすることはできないかという指摘があった。
- ・弘法山について、確かに以前と比べて人手は増えているが、公共交通を利用することはないという現状の報告があった。
- ・弘法山の山頂での滞在時間を少しでも長くするため、現在も実施している弘法山マルシェなどのイベントをもっと頻繁に実施したらどうか。滞在時間を長くする工夫があれば、公共交通を利用したり、あるいはその場でお金を使ってもらうきっかけになるのでは、という指摘があった。
- ・案内機能が決定的に不足しているのでは、ということで案内板やアプリを充実させる必要があるのではないか、とのことだった。

【2班の発表内容】 発表者：今井実委員

- ・まずはどのように来訪客を集めるかという、そういった手段を考える必要があるのではないか。それから、宿泊施設を含めたタクシーなどの予約システムをしっかりと構築したほうがいいのかという指摘があった。
- ・鶴巻は移動手段という考え方でいうと、地域が狭いので他と比べるとそこまで公共交通が必要ないとのことだった。
- ・道路や駐車場の整備が少し遅れていると感じる。
- ・自動車もいいが、弘法山周辺の広さを考えると、レンタサイクルなどの移動手段の方がむしろ合っているのでは。ただ弘法山に登るだけではなくて、景観の良いところを点在させながら、周辺をぐるりと回れるような移動手段を考えてはどうか。
- ・山に長時間滞在するのも大変なことなので、弘法山にアスレチックやライフシュエティングなどの施設があれば、子どもから大人までいろんな方が行って1日楽しめるという状況も作れるのではという意見があった。
- ・商店街でお金を使ってもらう体制づくりが、地元としてはまだ十分にできていないので、これから経済の活性化に取り組んでいければという話があった。
- ・予約だけではなく、点在するところを歩いて回ったりするときどこにどういったものがあるって、そこに行くにはどう行けばいいか。また、その周辺にはどういった店があるって、何をやっているかをQ

Rコードなどで読み取ることができ、迷うことなく目的地に着くなどの仕組み、あるいは情報発信をしっかりと取り組んでいただきたいという指摘があった。

- ・新しい移動手段の一つとして、鶴巻から弘法山までのロープウェーを引いてほしいという考えもあった。

それぞれの班の発表を聞いて、新たな発見や気づきなどが生まれ、共有しておきたいことがあれば発言

【吉村慶一委員】

- ・1班では、秦野戸川公園満喫コースなど「神奈中バスで楽しくお得に」という取組が紹介されたが、目的地が1か所である。例えば弘法山ともう1か所コースに組み込むことができると、1か所目の滞在時間が長くなり公共交通を使う人が増えてくるのではと思った。

【福森真司委員長】

- ・神奈川中央交通として、コロナ禍で売り上げが80数%だったものが、たばこ祭の開催により売り上げが100%にまで回復したとのことだった。人が外出しようというきっかけとして、イベントなどの仕掛けをしていくのがやはり有効なのか。また、弘法山に家族で登ろうと出かけても、お年寄りも歩いてでも厳しいところを、孫は走って駆けて行ってしまおうというように、そこに格差が生まれるが、そこで次世代交通のようなモビリティの活用も参考になると感じた。

早稲田大学マニフェスト研究所の長内氏から全体の講評をもらった。

【長内紳悟氏】

- ・切れ目ない交通サービスで経済が活性化される。弘法山を中心にそれが実現できるのではないかという議会のあて（仮説）がその通りか、あるいは別の視点があるのかは委員間で捉え方が違うと思う。
- ・大事なものは皆さんの頭の中で絵（ビジョン）になったかどうか。ビジョンの設定がしっかりしていないと、どうしても手段だけになってしまう。
- ・どんな人たちに来てもらいたいかの目標設定をしっかりとしていくと良い。（例：3,000円使う人を7,000円使ってもらえるようにする）
- ・今日の話が見えたところを深掘りしたり、少し俯瞰してみると大事

なところが見えてくるのではと思いました。

- ・今はビッグデータが活用され始めている。弘法山に誰がいつ、どこ
のまちから来ているのか、その年代や性別まで分かる。また、弘法
山をインターネットで検索した人は同時に何を検索しているのか、
そこまでデジタルの時代で調べられる。
- ・ただ、データはデータとして議会も研究をしなければならないが、
データだけでは見えてこない実際の状況を、こうして現場の方に来
ていただいたので、それを踏まえて秦野にとっての最適解は何かと
いうところをもう少し掘り下げていけるのではと思い、次の展開が
楽しみ。

最後に、大野副委員長から閉会のあいさつがあった。